

「早く家から出たい」  
そればかり考えていた。

います。総合福祉企業をめざし、兵庫県尼崎と滋賀県東近江でヘルパーステーションを運営する株式会社TUBESと兵庫県西宮でヘルパーステーションを運営する株式会社えまでの2社です。身体介護・生活支援・移動支援・通院移送サービスなどご利用者が自宅にいても自立した日常生活を送れるよう生活を支援する取り組みを総勢30名ほどのスタッフとともに汗を流しながらやっています。ちなみに「えまでい」は、いてまえを逆から呼んだもの、福祉関係の仕事を常に規制との戦い、既成概念にとらわれず、ご利用者様のお役に立てるようどんどん挑戦しよう！という気持ちをこめました。「いてまえ」は関東のかたは馴染みのない言葉かもしませんが、ガンガンいこう！の意味の大坂弁、近鉄バッファローズのいてまえ打線のいてまえです（笑）

勉強では太刀打ちできない人がいるのを家から出たい」とそれはかり考えていました。小さい頃から見せつけられたので、なにか他のことで自分はがんばろう!と子どもながらに決めました。幸いなことに、比較されることが嫌になり引きこもるタイプでなく、ちがつた道で一生懸命やれたらいいやと気持ちを切り替えられる性格が功を奏しました。そんなときには甲子園の優勝投手で、小学校のときに彼の活躍する姿を見てすごく憧れをもちました。こんな身近なひとが出来たのなら僕も出来る!というとんでもない勘違いなのですが(笑)そこで小4から野球をはじめました、中学ではクラブチームに所属し、元巨人の元木大介さんや元日本ハムの岩本勉さんと一緒にプレイしたのですが、プロ野球選手を輩出するような環境で練習をかさねたことで野球を上手くなりたい!という気持ちが一層強くなっていました。

**野球をとると何者でもない自分。**  
推薦で高校にいき、甲子園出場。つぎはプロを目指そうか！と思いつて兄弟に相談すると「言「やめとけ！」」「なぜ？」と聞くと「そんな甘い世界ぢやう、特に野手なんかはすごいのがいっぱいおるから目指すのはええけど、次の人生のことを考えながらやつたほうがいい」。たしかに同世代でプロで活躍した人は練習をみていてもモノが違いました。中日監督の立浪和義さんやコーチの片岡篤史さん、日本ハム監督の新庄剛志さん、そして元木大介さん、岩本勉さん、彼らといふとスゴイといふよりも比較にならない違いをまざまざと見せつけられるのです。たしかに高校時代は限界を超えて練習したのですが、努力では超えることの出来ない壁があるのを私自身なんとなく感じてはいたのです。では自分はどう生きるべきか？と考えアマチュアの世界のチャンピオンになろうと決めたのです。  
アマチュアチャンピオンといえば社会人野球。大学を卒業し実業団に進みました。社会人野球は野球が仕事、とはいえたまたく働くかないわけではなく毎日朝から昼までが仕事、仕事を言つてもなにか部品を数えたりするべル、こんなんでええんかな（笑）と思つてはいたのですが、昼からは練習、週末は遠征と試合、休みはほんまりません。都市対抗に出る結構な手当がつき、給料も一般社員よりよかつたのでお金はどんどん貯まっていきました。そんな生活を2年ほどしたころアメリカンリーグに参加してみないか？と誘われたのです。ワインターリーグはメジャーを目指す若者の集まり、当時25歳の私はかなり年齢的には上、参加するには会社を辞めないと云ひ、しかもワインター

野球をとると  
何者でもない自分。

「NO」を捨てた瞬間から、  
私の人生は大きく変わりはじめました。

